

ロタリックス（1価）ワクチンに関する説明書

1. ロタリックス（1価）ワクチンとは

ロタリックス内容液は、ロタウイルスによる胃腸炎を予防する経口生ワクチンです。（注射剤ではありません）。

生後6週（42日）から24週（168日）までの間に2回接種します。（初回接種は生後14週6日までに行うことが推奨されています。）

1回目の接種は生後6週（42日）以上に行い、2回目は27日以上の間隔をおいて、24週（168日）までに2回の接種を終了します。

2. ロタウイルス胃腸炎について

5歳以下の乳幼児にみられるウイルス性の胃腸炎です。その感染力は強く、一般的な手洗いなどでは予防が難しいと言われています。ロタウイルス胃腸炎の多くは突然のおう吐に続き、白っぽい水のような下痢を起こします。発熱を伴うこともあり、回復には1週間ほどかかります。時に脱水、腎不全、脳炎・脳症などを合併することもあり、症状が重く脱水が強い場合には入院が必要となることもあります。

日本でのロタウイルス胃腸炎の発症は冬～春に多く、主に生後3～24カ月の乳幼児に起こりますが、ピークは生後7～15カ月です。生後3カ月までは、母親からもらった免疫によって感染しても症状が出ないか、症状があっても軽く済みますが、生後3カ月以降に初めて感染すると重症化しやすくなります。

3. ロタリックス（1価）ワクチンの副反応について

国内で行われた臨床試験では、主に易刺激性[ぐずり]（7.3%）、下痢（3.5%）、咳・鼻みず（3.3%）などの副反応がみられました。その他、発熱、食欲不振、おう吐、胃腸障害、血便排泄などがみられました。（接種後30日間での報告）。

心配なことがあれば、医療機関にご相談ください。

4. 次の方は接種を受けないでください

1. 明らかに発熱のある方（通常は37.5℃以上の場合）
2. 重い急性疾患にかかっていることが明らかな場合
3. ロタリックス内容液の成分（詳しくは医師にお尋ねください）によって、過敏症（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応を含む）を起こしたことがある方
4. 腸重積症を起こしたことがある方
5. 腸重積症の発症を高める可能性のある先天性の消化管障害があり、治療していない方
6. 重症複合型免疫不全（SCID）を有する方
7. その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいと言われた方

5. 健康被害救済制度

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因によるもの

かの因果関係を専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に給付を受けることができます。

6. 予防接種を受ける前の注意事項

予防接種は体調の良いときに受けるのが原則です。日頃の体質、体調など健康状態を知っておくようにしましょう。

- ①受ける予定の予防接種の効果や副反応、健康被害救済制度について説明書をお読みいただき、理解した上で接種をお受けください。**わからないことがある場合は接種を受ける前に質問しましょう。**
- ②他のワクチンを接種した場合、その後の接種間隔を各予防接種説明書で確認してください。
- ③当日はお子さんの健康状態をよく観察し普段とかわりないことを確認しておいてください。体調が悪いと思ったら、かかりつけ医に相談の上、接種するかどうか判断するようにしましょう。
- ④予診票は接種をする医師への大切な情報ですので、責任を持って記入してください。
- ⑤母子健康手帳を必ずお持ちください。

7. 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ①接種後 30 分は急な副反応がみられることもありますので、接種会場でお子さんの様子を観察してください。
- ②接種後に体調の変化や異常な症状がみられた場合は、速やかに医師の診察を受けてください。接種後に、下痢、嘔吐、胃腸炎、発熱などの副反応がみられることがあります。また、「ぐったりとする」「泣きと不機嫌をくり返す」「嘔吐をくり返す」「イチゴゼリー状の血便」や、「原因不明の不機嫌な様子」がみられた場合は、腸重積症の可能性があるため、すぐにかかりつけの医師へご相談ください。海外の製造販売後の調査では、接種後 21 日間（主に 7 日間）はわずかに腸重積症の発現リスクが増加する可能性があると言われています。この期間はとくに注意してください。
- ③接種当日の入浴は差し支えありません。
- ④接種当日は、はげしい運動は避けてください。
- ⑤接種後に母乳を含む固形食及び流動食に関する制限はありません。
- ⑥接種後に、ウイルスが便などを介して家族やまわりの方に感染することもあります。おむつを交換した後には手洗いをするなど注意してください。また、次のように免疫力が低下した人と密接な接触がある場合には注意してください。
 - ・悪性腫瘍患者または免疫障害のある人
 - ・免疫抑制療法を受けている人

令和 7 年度版
 茂原市長生郡医師会
 長柄町福祉課